

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①生徒理解に努め、自己肯定感・規範意識を高めるとともに学び直しの機会を設けるなど分かる授業を行います。②少人数、習熟度別学習を中心に「個に応じた指導」を充実させ、生徒による授業評価を実施して授業改善に努めます。③コミュニケーションを通して授業を展開し、学習を深めていく姿勢を育てます。	①「学習相談」を学び直しの機会とし、繰り返し取り組むことで「分かる」「できる」を感じさせることに努めた。②授業評価の結果等を踏まえ、今後も継続する必要がある。③言語活動を取り入れた授業を心がけ、グループ学習や学びあいの場面を増やすための工夫をさらに研究していく。	B
豊かな心	①校内で道徳授業を公開し、教科化に向け「道徳の時間」の授業作りに取り組みます。②善悪の判断基準を確立し、人権を尊重する豊かな心を育てます。③地域行事等への参加などを通して、相手を思いやる心や社会に役立つ行動をする態度を育てます。	①道徳の授業をローテーションで行い、授業力向上のために役立てた。学校全体に広げていきたい。②人権作文に全校で取り組み、人権を尊重する豊かな心を育んだ。③部活動との兼ね合いもあるが、ボランティアなどへの積極的な参加を呼びかけ、地域行事へ参加できたと考えられる。	A
健やかな体	①進んで体を動かす楽しさやこころ良さを味わせるとともに、その必要性を認識させます。②自分のよさや可能性を信じ、様々な学びあいを通して、豊かな人間関係を作る力を育てます。③自己の健康や運動とのかかわりの大切さを指導し、それを生かした年間計画・授業展開を行ないます。	①体育的行事を通して体力向上に努めた。特に学年球技大会では、苦手な生徒も仲間と一緒に楽しそうに取り組む姿が見られた。②他者から学び得たことを活かし、日常のマナーや思いやりの精神向上が感じられた。③健康教育や学習会などから、生涯を見通した健康な体づくりに関心を持たせることができた。	B
特別支援教育	①特別支援教育の意義を全職員で共通理解していきます。②特別な支援を必要とする生徒一人ひとりについて、教職員の共通理解を図り、学校生活の様々な場面で個々の特性や状態に応じた支援が行われるようにしていきます。	①職員間の共通理解が定着することで、課題の解決や改革に資することが増えた。②支援を必要とする生徒個々の特性を関係職員で共通理解し、こまめに情報交換を行った。その結果、授業や行事において合理的配慮の理解促進、意識向上につながった。	B
児童生徒指導	①教職員が率先してあいさつを行い、生徒が自分からあいさつできるように指導します。②報告連絡相談の徹底と情報の共有を図り、常に組織対応に心がけます。③教育相談や三者面談では、生徒や保護者が相談しやすい環境を作ります。④生徒による自治活動を大切にしながら学校づくりに取り組みます。	①挨拶活動を通し、自然に挨拶を交わすことが増えた。②生徒指導の情報共有と組織的な対応を心がけたが、未然防止・早期発見を意識した日頃の組織的な取り組みに課題が残った。③困り感に寄り添う相談を心がけた。④非行防止の取り組みを校内外で発表することができた。	B
教育課程・学習指導	①校内授業研や小中一貫教育推進ブロック授業研において授業公開し、「分かる授業」を目指します。②英語科・数学科において少人数指導、習熟度別学習を取り入れる。③年度末に生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとにしながら授業改善を行います。	①小学校への授業参観、研究討議で「分かる授業」等について意見交換を行った。②英語、数学の少人数、習熟度別学習で、きめ細やかな指導を心掛けた。③授業評価では、おおむね良好であったが、目標の達成ができなかった教科も一部あった。	B
地域連携	①学校評価委員会を始め地域の支援をいただきながら、よりよい学校を創造します。②地域の主任児童委員等との連携を図り、生徒指導上の問題について情報交換を行い、不登校・いじめ・非行化防止に努めます。	①地域の支援を仰ぎつつ、行事に積極的に参加し開かれた学校を意識した取り組みを行った。②生徒指導上の問題に関しては、地域懇話会等の場で、情報交換を行い、問題行動の防止につながる意見交換を行うことができた。	A
いじめへの対応	①定期的な「教育相談」や「いじめアンケート」を実施し、生徒一人ひとりの状況について把握し、全教職員で共有する。②校長がいじめ防止対策委員会のリーダーとなり、担任や各学年教諭を中心に、生徒一人ひとりに対しての支援を進める。	①相談を定期的実施し、いじめの早期発見に努めた。今後は未然防止に繋がる取り組みが課題である。②朝の打ち合わせ、学年連絡会等を通して、直近の生徒の情報交換を行い、生徒の支援に役立てることができた。	B

<p>人材育成・組織運営</p>	<p>①キャリアステージに応じた目標設定に基づき、組織的に授業力を高められるような職員集団作りを行います。②若手ばかりでなく中堅・ベテランまでお互いに授業を参観しながら、学習指導と生徒指導双方の実践力を高めます。③組織の効果的運営とミドルリーダーの育成をめざし、主任会の情報交換や意見交換を充実させていきます。</p>	<p>①メンターチームの教員を中心に研究授業を行った。授業力向上の一助となったが、参観する教諭が少なく来年度以降の課題である。②メンターチームの会合、学年連絡会等で、教員としての資質向上や情報交換、意見交換を目的として進めることができた。</p>	<p>A</p>
<p>ブロック内相互評価後の気付き</p>	<p>①指導の重点として「発信する力」の育成もテーマとし、来年度も引き続き取り組んでいく。②小中合同研修会では、話を聴けるようになってきたが、語彙力や根拠をもったり、明確に伝える力に課題があることを確認した。じっくり考えをまとめる場面をつくったり、関心に応じたカリキュラムを作ることの大切さを確認できた。③「あいさつスローガン」の見直しを行った。各々の学級会を相互に参観した。9年間で育てる子ども像を意識して参観し、相互理解を深めることができた。④中学教員による小学校での授業を行った。中学校への不安が解消されるよい機会となった。</p>		
<p>学校関係者評価</p>	<p>体育祭や合唱コンクールでは、多くの保護者や関係者が参観に訪れるのは例年通りよいことである。授業参観でも多くの保護者が参観しているが学級・学年懇談会になるとその人数が減ってしまうことについては、懇談会の内容の再確認と保護者への広報の工夫がさらに必要である。また、教科化となった「道徳の時間」の授業をぜひ授業参観の時に計画してほしい。ボランティア活動では、実際にはボランティア活動をしており、ボランティアに関するアンケートの数値が今年度も低い。質問の仕方を工夫して、評価を進めていく必要がある。</p>		
<p>学校経営中期取組目標振り返り</p>	<p>○授業力向上に関して、次年度校内研究授業を小中一貫事業と連動し、全員参加で複数回行う見直しを持つことができた。○地域連携推進のため、ボランティア活動に対する更なる改善を加えていきたい。○周年行事等の大きな行事を契機に、生徒の学校運営への参画意識を高める工夫を行った。○生徒指導の事例に対する迅速な対応により、早期発見・早期解決につながったが、改善点も見られた。特別支援を要する生徒への支援体制も含め、今後も組織の強化をはかっていく。</p>		